

研究の概要

◆課題認識

- ・導入段階において、子どもの問題意識が自分事になっていない
- ・導入段階における発問が子どもの思いや問いを引き出すものになりえていない

◆研究の目的

- ・第5学年の道徳科学習において、道徳的な問題との出合わせ方の工夫を図ること

◆研究の方法

- ・道徳的な問題との出合わせ方の工夫
- (1) 問題意識を喚起する資料提示
 - (2) 問題意識を高める発問

研究のポイント・成果

◆研究のポイント

①ポイントA

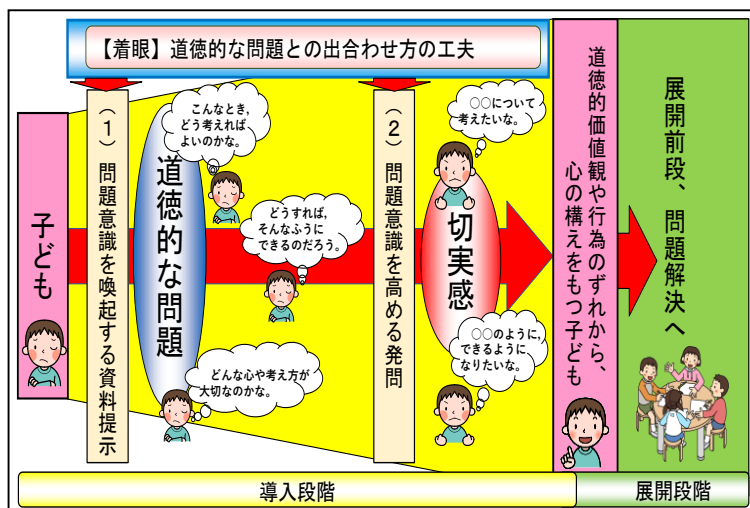
- ・これまで、道徳的価値観や行為のずれを生むことができなかった資料提示の仕方を、自分自身の経験をふり返り、自分や他者とのずれを生み、問題意識を喚起することができる資料提示の仕方へ

②ポイントB

- ・これまで、子どもの思いや問いを引き出すことができていなかった発問を問題意識をより高めることができる発問へ

◆成果

- ・これまで、子どもは問題意識をもつことができていなかったが、資料提示の仕方を工夫し、問題意識を高める発問を講じることにより、子どもは自分自身をふり返り、価値観や行為ずれを生み、問題意識をもつことができた



今後の課題

◆道徳的な問題を自分の生活経験と結び付けるための支援

- ・導入段階における、生活経験や価値観を交流することができるための支援
- ・道徳的な問題を自分事としてとらえることができる「問題意識を高める発問」の精選